

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400130		
法人名	社会福祉法人宝樹		
事業所名	グループホームニコニコット		
所在地	千葉県市原市有秋台東2-4-10		
自己評価作成日	平成26年9月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成26年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームニコニコットでは、「思いやりの心」という理念のもと、入居者を主体とした家庭的で温かみのある支援を行っている。また、地域行事に積極的に参加することで、地域の方々とのつながりを広げている。食事においては、家庭菜園で収穫した旬の野菜を使用して、入居者と食の楽しみを分かち合っている。掃除や洗濯、おやつ作り、食事の準備や後片付けなどを職員と共同で行っており、個々に持っている力が発揮できる機会を大切にしている。平成26年10月から医療連携体制の導入により、訪問看護ステーションと24時間連携し、入居者の医療面の充実化を図ることを予定している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ニコニコット」は閑静な住宅地の中にあり、平成25年7月に開設された新しい施設である。「思いやりの心」を主眼とした理念を掲げ、笑顔あふれる温かい施設づくりを目指している。施設敷地内にあるプランターや花壇を使用し、季節の花・野菜を栽培しており、入居者の楽しみとなっていると共に、採れた野菜を食事に活用する等、季節を楽しめるよう工夫している。また、日頃から、散歩・買い物・ドライブ等の外出機会を設けている他、入居者と職員が共同でおやつを手作りする等、入居者の生活の活性化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心」という事業所独自の理念を掲げており、利用者が地域の中で安心した生活が送れるように支援している。理念を事業所内に掲示し、職員全員で共有し、理念の実践に努めている。	法人理念である「思いやりの心」を基にした施設理念を掲げている。理念においては、申し送り時に唱和し、共有を図ると共に、会議や研修にて理念を確認する機会を設け、理念に基づいた施設運営に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民とは、散歩時等に挨拶を交わす関係を築いている。また、地域のお祭りや、近隣の公民館や保育所の行事に参加しており、地域との繋がりを少しずつ広げている。その他、同法人の障害者支援施設及び保育園との交流も行っている。	防災訓練や夏祭り等の地域行事に参加し、地域住民との交流を図ると共に、同法人の保育所・障害者施設との交流行事や地域の小学校の運動会見学等を実施しており、世代間交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の医療及び福祉関係機関の交流会で、事業所の実践状況を発表している。今後、認知症サポーター養成講座の実施を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催している。市の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表者、本人、家族、職員を構成員として、事業所の状況報告、活動報告、意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は、市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域福祉ネットワーク会長等が出席しており、2か月に1回開催している。議題として、施設の活動報告を行い、施設理解促進に努めると共に、質疑応答を行い、施設サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の相談や運営推進会議を通して、市町村と連携を図り、適切な支援に繋げている。	運営推進会議を活用し、市職員と意見・情報交換を行っている他、随時、運営における相談や報告を行い、密な連携を図っている。また、市原市認知症対策連絡協議会に出席しており、市や地域と協働で認知症の理解促進に取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書及び重要事項説明書に身体拘束を行わない事を明示しており、身体拘束を行わない支援を行っている。安全対策の為、玄関は施錠しているが本人の要望に応じ、適時外出などを行っている。	原則的に身体拘束を実施しない旨の施設方針を重要事項説明書に明記し、家族の理解を得ると共に、各支援方法の研修の中で、身体拘束排除の為に項目を挙げ、職員全員へ周知している。	現在、身体拘束排除及び高齢者虐待防止においては、各支援方法の研修の中で触れているが、今後は、専門的な研修を実施することにより、より深い理解とより高度な知識を職員へ浸透させて頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の入職時に虐待防止に関する研修を実施している。ミーティングの中で、虐待に関する話し合いを行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修を受講している。受講内容については、職員会議で周知している。必要に応じて制度が活用できるように、日常生活自立支援事業及び成年後見制度利用に関する資料を備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な説明を行うことに努めている。疑問点などがある場合には、その都度適切な説明を行い、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に利用者及び家族の意向を確認している。また、日頃の生活の中での確認や家族の来訪時や電話でのやり取りにより、意向に沿った支援に努めている。	家族の訪問時や電話連絡時等を活用し、家族の意見・要望を確認している。また、運営推進会議等を活用し、家族以外にも市職員や地域からの意見を収集する体制を整えている。挙げた意見・要望等は、連絡帳や申し送りを活用し、職員へ周知の上、適切な改善に取り組んでいる。	入居者の日々の様子や施設の活動内容を家族が理解できる方法を工夫・検討し、意見・要望等をより言いやすい関係作りに向けた取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、日々の申し送りにて職員の意見を確認し、サービスの質の向上に繋げている。また、職員の個別相談にも対応しており、職員一人ひとりの思いをくみ取っている。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案を確認していると共に、管理者が個別に意見・要望等を確認する機会を設けている。連絡帳や申し送りを活用し、職員全員で常に新しい情報を共有できる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週2回、管理者及び職員と意見交換を行っており、働きやすいしやす環境づくりに努めている。パート労働者に対しては、要望に応じて労働時間や労働日数を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者一人ひとりに合わせた支援を行うための研修を随時実施している。管理者及びリーダーはキャラバンメイト研修に参加し、他の職員に対して認知症ケアに関する指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市原市認知症対策連絡協議会や地域関係者の情報交換の場に参加し、地域関係者とのネットワークづくりや、情報収集を行い職員のスキル向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時に、本人の要望を確認し、安心した生活が送れるように支援内容を検討している。また、入所後も、随時要望等を確認し、相互に良好な関係が構築できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に、家族に要望を確認し、安心した生活が送れるように支援している。また、入所後も、必要に応じて要望を確認し、適切な対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族との面接を通して、必要な支援について検討し、利用者一人ひとりに対して適切な支援が行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力に応じて、家事等の生活活動を職員と一緒にしている。利用者の人生経験から、生活の知恵等を教わる事もあり、職員の学びの場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ面会に来ていただけるように、家族に声を掛けており、本人との関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との面会が出来るように配慮し、相互の関係が継続出来るように支援している。また、馴染みのお店や美容室等への外出も支援している。	友人・知人・親戚等の訪問は自由となっていると共に、希望に応じて手紙のやり取りを支援する等、馴染みの関係継続に配慮している。また、地域の社会資源の活用・行きつけの美容室の利用等、馴染みの場所への外出支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の能力に応じて、日々の生活の役割分担を行い、生活が共同出来るように支援している。また、テーブルの位置を配慮し、利用者同士が楽しめるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所以来、退所者が4名いたが、関係継続の支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めており、適切な支援に繋げている。把握が困難な利用者については、表情やしぐさ、生活歴、家族や友人、他事業所等の方々からの情報収集をもとに本人本位に検討している。	契約時に、本人・家族から生活歴・身体状況・意向等を確認しいると共に、必要に応じて、他サービス・医療機関からも情報収集し、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日々の様子における特記事項を申し送りや連絡帳等にて、職員全員へ周知しており、常に新しい情報を共有できる体制を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、本人の意向に沿った暮らしの支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前は、本人、家族、他事業所等の方々から情報を頂き、入所後は日々の関わりの中で、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員で生活の課題や必要な支援について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	必要に応じて家族も会議に参加し、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。今年度より入居者一人ひとりに対し、担当職員を付けており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	担当職員制度の導入等、介護計画の内容の周知を図る取り組みを始めたが、今後も介護計画に沿った統一したケアの実現に向け、工夫及び検討を継続して頂く事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を支援経過に記録し、全職員で情報を共有している。また、必要に応じてミーティング時に介護計画の内容について話し合いを行い、適切な支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、病院受診の同行を行っている。また、本人や家族の希望に応じて、馴染みの理容室、美容室の利用支援を行っている。その他、郵便局等、地域の社会資源利用の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて、地域の社会資源の利用を支援している。同法人の障害者支援施設の夏祭りやクリスマス等の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族及び本人が希望する医療機関に受診している。家族が受診に対応出来ない場合には、職員が支援している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、必要時や希望に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。訪問看護の実施を開始し、入居者の健康管理等の連携を図ると共に、緊急時・急変時の協力体制も構築している。その他にも、必要に応じて、歯科医往診を実施しており、適切な口腔ケア・義歯調整等を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が入院した時には、病院の看護師と連携を図りながら、適切な退院支援に繋がっている。平成26年10月から、訪問看護の導入を予定している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、医師・看護師との情報交換に努めており、入院中の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援については、医療面での体制が整備できていない為、行っていない。平成26年10月から、訪問看護導入による医療連携体制を整備する予定になっており、今後は終末期の支援の実現に向けて検討を行っていく。重度化した場合は、事業所として出来る限りの支援を行うことを方針としている。	契約時に施設方針の説明を行い、家族の同意を得ていると共に、必要に応じて延命希望確認書を交わし、終末期・重度化における意向の確認を行っている。訪問看護の導入等、医療機関との連携強化を目指しており、より家族の意向に沿った終末期支援を行える体制を整えられるよう調整を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に、職員全員にマニュアルを配布し、急変や緊急時の対応に備えている。事業者内にもマニュアルを掲示しており、日頃から意識付けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。災害時の備蓄については、法人施設からの支援を受けられる体制になっている。また、井戸水の利用が可能となっており、災害時の生活用水の確保が出来ている。	スプリンクラー・自動通報機・火災報知器等の消防機器を設置していると共に、年2回の消防避難訓練を計画している。訓練では、夜間想定訓練・消防署の立会い訓練を予定している。また、地域の消防訓練に参加する等、地域との連携強化に取り組む他、救命救急講習・緊急搬送研修等を実施しており、入居者の急変時に備えた対策を講じている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉づかいで、日頃から関わりを持っている。利用者一人ひとりに合わせた支援を行い、快適かつ楽しい生活が送れるようにしている。	職員の入職時にプライバシー保護・接遇における研修を実施しており、職員全員が意義を理解している。必要に応じて、同性介助や声掛けの工夫を行い、その人らしい生活に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、自己選択・自己決定出来るような、コミュニケーションを図っている。利用者の意向に応じて、更衣、水分補給、外出、買物、理美容、家事、テレビや音楽鑑賞等の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間は決まっているが、それ以外の時間は利用者一人ひとりのペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じて、理容室の利用支援を行っている。日々の身だしなみは、職員が協力しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを職員と協働している。外食の実施や行事食の提供を行い、食の楽しみを支援している。	日頃の献立作成においては、業者に委託しているが、入居者の嗜好・希望及び施設の菜園にて採れた野菜等に応じて、メニューを変更・追加し、楽しい食卓作りに取り組んでいる。定期的に外食会・行事食等を実施しており、食に対する楽しみを支援している。	食事時における職員の人員配置を見直し、入居者の安全確保及び見守り体制の強化に取り組んで頂く事を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に、食事量及び水分摂取量を記録している。摂取量の少ない方については、補助食品の提供やこまめな声掛けにより、必要な栄養の確保に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。口腔内の異変等があった場合には、協力医療機関の歯科医に相談し、往診して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。また、利用者の表情やしぐさなどから、排泄のタイミングを見極めるよう努めている。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握すると共に、必要に応じて、声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、水分・食事・運動等を工夫し、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動の実施、ヨーグルトやヤクルトの摂取などで便秘予防に取り組んでいる。排便の状況に応じて、医師から処方された下剤や市販の漢方薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。また、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるようにしている。最低週2回の入浴支援を実施しており、身体の清潔保持に努めている。	入浴は毎日実施しており、希望や体調に応じて、適切な入浴機会の確保に努めている。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施し、入居者の清潔保持に取り組んでいる。浴室は、十分な介助スペースを設けていると共に、脱衣所からトイレに直接行けるようになっており、入居者の安全面・プライバシーに配慮した設計となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの希望や状況に応じて、休息出来るように支援している。夜安眠が出来るように、日中はなるべく活動して頂けるよう働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬は、職員全員が把握しており、適切な服薬支援を行っている。健康状態に変化があった場合には、主治医に相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に応じて、野菜づくり、お花の手入れ、雑草とり、家事、料理、おやつ作り、散歩、歌、踊り、創作活動などを行い、楽しみある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から、散歩、買物、ドライブ、外食などを実施している。また、利用者の希望にお墓参り、友人宅への外出支援も行っている。	日頃から、散歩・買い物・ドライブ等、外出機会を設けている。希望に応じて、個別に外出できるよう体制を工夫しており、入居者の楽しみにつながっている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、入居者の生活の活性化に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は、本人が持っているお金で購入して頂いている。その際、職員も一緒に同行し必要な支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話の利用を支援している。また、外部からの電話の取次ぎも行っている。本人宛のお手紙が来た際には、便箋や切手の購入など返信が出来るような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾と毎月手作りカレンダーづくりを行い、季節感を味わって頂いている。共用の空間については、適宜掃除をこまめに行い、清潔保持に努め、居心地良く過ごせるようにしている。アイランドキッチンを使用しており、利用者と共におやつ作りを行っている。車椅子対応型トイレは広いスペースを確保をしていると共に、人感センサーを設置し、安全に利用できるようになっている。	施設内は、バリアフリーになっており、十分な介助スペースが設けられ、入居者の安全面に配慮した設計となっている。また、季節飾り等を工夫し、明るく楽しい雰囲気作りがなされている。共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子等が設置されており、自由にくつろげる環境となっている。非常設備の設置や避難経路の複数確保がなされており、非常時における対策を講じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に腰掛けベンチを設置し、一人で過ごせるように配慮している。また、ソファを配置して、気の合う利用者同士が楽しく過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使い慣れたものや好みの物を持ち込んでおり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。エアコンによる空調管理を行っており、快適に過ごせるよう配慮している。	入居者・家族の希望の物を持ち込むことが可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を敷くことも可能となっており、生活歴に合わせた居室作りもなされている。背の高い家具には、転倒防止機器を設置し、安全確保に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっていると共に、手すり、エレベーター、玄関の腰掛けベンチの設置やトイレの扉の工夫により、安全に生活が送れるように環境を整備している。		